

令和 2 (2020)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	Regnase-1 を介した mRNA 管理機構の包括的理解
研究代表者	<p>審良 静男 (大阪大学・免疫学フロンティア研究センター・特任教授) ※令和 2 (2020)年 9 月末現在</p>
研究期間	令和 2 (2020)年度～令和 6 (2024)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>【課題の概要】</p> <p>本研究は、研究代表者がサイトカイン mRNA の分解に働く酵素として発見した Regnase-1 を中心に、免疫・炎症応答に加えて、脂肪代謝や組織恒常性維持における機能とその制御メカニズムを解明することを目的としている。</p> <hr style="border-top: 1px dotted black;"/> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】</p> <p>細胞腫特異的なノックアウトマウスや部位特異的な変異ノックインマウスの作製と解析、ターゲット mRNA の同定、阻害剤の開発がしっかりと計画されており、Regnase-1 の包括的理解につながる研究課題である。Regnase-1 による免疫・炎症応答制御に関する理解を深めることに加え、Regnase-1 の新しい機能や制御機構の解明を目指すという点で、学術的意義が高い。これまでに知られていない Regnase-1 による mRNA の品質管理機構の解明に資すると共に、RNA 生物学の新たな領域の開拓につながることを期待される。</p>